



Title	地域資源を活用した地方都市中心市街地における地域マネジメントに関する研究
Author(s)	澤田, 廉路
Citation	大阪大学, 2011, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/59237">https://hdl.handle.net/11094/59237</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed</a> 大阪大学の博士論文について

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	澤 田 廉 路
博士の専攻分野の名称	博士(工学)
学 位 番 号	第 2 4 9 5 1 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 23 年 9 月 20 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第1項該当
学 位 論 文 名	工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻 地域資源を活用した地方都市中心市街地における地域マネジメントに関する研究
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 加賀有津子 (副査) 教 授 澤木 昌典 准教授 松村 暢彦

### 論 文 内 容 の 要 旨

衰退の厳しい地方都市の中心市街地、商店街の再活性化について考察し、今後の活性化へ向けた知見を得るのが本研究の目的である。本研究は、研究背景・目的、既往研究レビューの序章と本編6章からなる。

第1部第1章では、本研究の背景となる全国の中心市街地、商店街の衰退の実態、その衰退要因であるモータリゼーション、商店街内部の認識、消費者の意識、中心市街地に関する関連法制度の変遷等について、文献調査を中心に把握した。

第2章では、商店街活性化にむけて活動している事例を中小企業庁「がんばる商店街77選」、「続がんばる商店街77選」の中から地方都市の40商店街を抽出し、活動主体、活動内容等を分析した。

第2部第3章では、境港市役所に保管されている事業関連資料に加えてアンケート調査、関係者へのヒヤリング調査を実施して、20年余の活動内容、活動の主体、セクターの変遷を把握し、活動期間ごとに、各主体、各セクターの役割と連携について考察した。

第4章は、水木しげるロード整備の進展により変化した商店街の業種や取扱品の変化を境港市の資料、過去の住宅地図をもとに、ヒヤリング調査で補完して、明らかにした。また、水木しげるロードの取り組みが「地域振興に役立っているか」「商店街の活性化に役立っているか」の評価、居住環境等の評価についてのアンケート調査を訪問者及び居住者に対して実施し、観光地化することで生じた居住環境の長所、短所、負の評価を含めて両面から分析した。

さらに、地価公示による地価の標準点が水木しげるロードにあることから、この標準点の公示価格の変動を他の商業地の推移と比較分析し、水木しげるロードの客観的評価を明らかにした。

第5章は、水木しげるロードの来訪者が消費した金額等についてアンケート調査を実施して、訪問者による観光消費額を推計し、その経済波及効果を2005年の鳥取県産業連関表を用いて試算して、境港市の中心市街地、水木しげるロードに関する取り組みにおける地域マネジメントの経済的な部分についての成果を明らかにした。

第6章では、第1章から第5章までの地方都市中心市街地における現状把握と地域マネジメントの

分析、調査対象事例の水木しげるロードに関連する事業活動のプロセスの考察・分析によって得られた「スピニマネジメントシステム(Spin Management System)」の空間(Space Management)、演出(Production Management)、誘致(Invitation Management)の各マネジメントが回転していくことで地方都市中心市街地活性化のスパイラルアップの好循環が生じる知見を取りまとめた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、地域資源を活用した地方都市の中心市街地活性化について、活動主体と活動内容の観点から地域マネジメント手法の方向性を考察したものである。得られた結果を要約すると以下の通りである。

- (1) 地方都市における中心市街地の活性化事例を活動主体と活動内容から整理し、複数のセクター間の主体が連携し合いながら活動している事例が多く、多様な主体間の協働連携体制が地域マネジメントの重要な要素の一つであることを明らかにしている。
- (2) 多様な主体の協働連携で地方都市の中心市街地活性化をすすめている鳥取県境港市をとりあげて、過去20年間にわたる活性化活動を資料調査、関係者へのヒアリング調査とともに活動主体と活動内容の変遷を把握している。それらを空間マネジメント、演出マネジメント、誘致マネジメントから構成される地域マネジメントの概念を適用して、構想期、初動期、展開模索期、発展期のそれぞれの公的セクターと民間セクターの役割を明らかにしている。その結果、公的セクター主導による空間マネジメントの構想期から始まり、民間セクターと公的セクターの協同による演出マネジメントをへて、徐々に民間セクター主導の演出、誘致マネジメントを中心とした活性化活動が盛んになっている地域マネジメントのプロセスを明らかにしている。
- (3) 鳥取県境港市の中心市街地商店街の活性化について、販売額、事業所数等の経済的評価と住民の居住環境評価を行っている。その結果、日常買い回り品を中心とした店舗から土産物等の観光客に対応した店舗に変容していくことで、入り込み客数が年々増加し、販売額、新規事業者数も増加し、住民の居住環境も向上していることを明らかにしている。
- (4) 水木しげるロード(鳥取県境港市)の経済波及効果を産業連関表を用いて推計し、民間セクターによる演出、誘致マネジメントが盛んになった2004年度には年間71億円に及ぶことを明らかにしている。これらの知見をふまえて、地方都市の中心市街地の活性化の方法として、空間(Space)マネジメントから演出(Production)マネジメント、誘致(Invitation)マネジメントを多様な主体で担っていくSPIN Management Systemを提案し、地域資源を活用した地方都市の地域マネジメントの可能性を示唆している。
- (5) 以上のように、本論文は地方都市の中心市街地の地域マネジメントに貢献する知見を得ており、ビジネスエンジニアリングの発展に寄与するところ大である。

よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。